

心の交流会

石巻市は、今回の地震に伴う津波被害で、死者・行方不明者が合わせて5,800人を超える大きな被害を被った。石巻市立雄勝中学校のある雄勝地区も人口4,300人のうち死者、行方不明者合わせて200名以上が犠牲になり、8割が家屋を失い、約3,000人が地区外に住まざるを得なくなった。雄勝中を離れ、仙台市の生出中に転校することになった生徒がきっかけで両校の交流が始まった。

1 メッセージ入り雑巾600枚

平成23年4月。雄勝中の佐藤淳一校長先生は、被災した生徒の転校先を一校ずつ訪問していた。津波に襲われた学校の様子を聞いた生出中の犬飼百合子校長先生は、すぐに生徒に「何かできることはないか。」と呼びかけた。すると生徒から「掃除用具が必要なのでは？」と声があがった。校舎が使えず他地区への間借りを余儀なくされていると聞いたからだ。生出中生だけでなく卒業生や保護者も巻き込んだ雑巾作りは、呼びかけからわずか二日間で600枚を超えた。その雑巾一枚一枚に、生出中生はていねいにメッセージを書き、雄勝中へ送った。雄勝中の生徒は、使い捨てることなくマイ雑巾として丁寧に繰り返し洗って使った。



丁寧に繰り返し洗って使った雑巾

2 「そーれ、そーれ!」「ファイト!」



生出中と雄勝中の合同チーム

生出中の生徒たちが「優勝目指そう」などと声を上げて盛り上がる。雄勝中の生徒が「やったあ」とハイタッチを交わす。雑巾を送ってから1か月後、生出中の校庭では両校の交流会が行われた。内容は、皆が楽しめる全員参加型の綱引きや長縄、部活動同士の交流試合、生出中PTA支援の給食会とした。

交流会後、生出中では生徒全員が感想文を書いた。1年女子はこう記した。「雄勝中のみんなが私服を着ていて、制服が津波に流されたと思うと悲しくなった。『生き残ったからには生き延びなければいけない。』と言った雄勝中のみなさんのように、つらいことがあっても明るく生きていきたい。」

3 自分の目で確かめた津波の威力

2回目の交流会は、生出中の生徒が雄勝中を訪問して行われた。訪問の目的は分かっていたが、学校を離れてのバス移動に、思わずうきうきしてしまう生徒もいた。

ところが、がれきが突っ込み足の踏み場もない雄勝中の状況を目にした途端、言葉を失い、涙を流す生徒もいた。「津波の威力ってこんなにすごいのか…。」「ひどすぎる…。」帰りのバスの中は静まり返っていた。



かるうじて外形だけが残った雄勝中

4 雄勝中の挑戦

雄勝中は学校が津波でなくなり、生徒が全員被災した。支援をもらうばかりで返せるものがない。生出中との交流会でも、お礼の言葉と校歌斉唱ぐらいしかできなかった。

「被災した雄勝中生だって、何かできるのではな
いか。」そう考えた佐藤校長先生は古タイヤと100円
ショップで買った麵棒を使って生徒全員で“輪太鼓”に取り組むことを提案した。



すべてがゼロからのスタート

5 「輪太鼓演奏」と「生出森八幡神社神楽」

3回目の交流会は生出中学校体育館で行われた。雄勝中の生徒はこれまでの支援に感謝し、気持ちを込めて輪太鼓を叩いた。生出中の生徒も今までとは違った思いを胸に、輪太鼓の響きを聞き、古くから生出地区に伝わる神楽を舞った。



神楽を披露する生出中生

? 考えよう

- 生出中の生徒が胸にした、今までとは違った思いとはどんなことだろうか。
- 資料「心の交流会」を通して、どのようなことを学ぶことができたか、まとめてみよう。